基礎看護学方法論Ⅰ　ゴードン機能的健康パターン

アセスメントの視点

ゴードンの11の機能的健康パターン　アセスメントの視点

番号：　　　　　　　　　　氏名：

活用する意味：

| カテゴリー | アセスメントの視点 | | 必要な情報 |
| --- | --- | --- | --- |
| 1. 健康知覚   　健康管理 | 健康に関する認識は適切か | これまでの健康に関する認識は適切か | □　既往歴  □　アレルギー  □　これまでの健康状態 |
| 現在の健康に関する認識は適切か | □　現在の健康状態  □　現在の健康状態の認識  □　治療や療養内容の理解  □　治療や療養における希望  □　医療者に援助してほしいこと |
| 健康管理は適切か | 健康管理状況は適切か | □　健康のために取り組んでいること  □　症状を自覚した時の行動や対処、その結果  □　薬、薬の管理  □　治療上指示されている自己管理  □　喫煙、飲酒 |
| 安全対策は適切か | □　転倒、転落の有無  □　感染  □　身体損傷の有無  □　暴力 |
| 1. 栄養-代謝 | 栄養摂取は適切か | 食習慣は適切か | □　食習慣（１日の食事回数・内容・時間帯、間食の有無、外食の  　　頻度、好き嫌い）  □　アレルギー |
| 栄養摂取量は適切か | □　１日のエネルギー必要量、摂取量  □　摂取量  □　栄養摂取量の制限  □　食欲　　□　静脈栄養、非経口的栄養摂取の量 |
| 水分摂取量は適切か | □　１日の水分必要量、摂取量  □　水分摂取に関する制限  □　血液検査（Hb,Ht,Na,Kなど）  □　口渇 |
| 摂食・嚥下状態は適切か | □　口腔粘膜の状態、歯と歯茎の状態  □　舌の状態  □　咀嚼状況  □　嚥下の状況 |
| 身体各部での栄養の利用（代謝）適切か | 栄養状態は適切か | □　身長、体重、BMI, ローレル指数（学童期以降）、カウプ指数（乳児）  □　血液検査（TP、Alb,　Hb、　血糖値など）  □　尿検査（尿糖など） |
| 皮膚状態は適切か | □　皮膚の状態、頭皮、毛髪、爪の状態  □　創傷の有無、治癒状況  □　褥瘡の有無、褥瘡リスク状態、褥瘡の程度、骨突出の有無  □　浮腫の有無、程度 |
| 免疫状態は適切か | □　体温  □　血液検査（WBC,CRPなど）  □　ドレーン挿入部など局所の感染徴候の有無 |
| 1. 排泄 | 便の排泄は適切か | 排便習慣は適切か | □　排泄パターン（回数、規則性）  □　排便コントロールのために日常的に行っていること  □　緩下剤の使用（種類、量） |
| 排便の状態は適切か | □　便の量、色、性状  □　便潜血の有無  □　排便時の不快感  □　便失禁の有無  □　腹部の状態（腹部膨満、腹壁緊張、腸蠕動運動など） |
| 尿の排泄は適切か | 排尿習慣は適切か | □　排尿パターン（回数、規則性、夜間排尿）  □　おむつ使用の有無  □　尿道カテーテル使用の有無  □　利尿剤使用の有無 |
| 排尿の状態は適切か | □　尿量、色、混濁の有無、臭気の有無  □　排尿時不快感の有無  □　尿失禁の有無、尿失禁パターン  □　血液検査（BUN、Crなど） |
| 汗の排泄は適切か | | □　普段の発汗状況  □　体臭の問題の有無 |
| 1. 活動-運動 | 身体活動は適切か | 身体活動状況は適切か | □　日常生活に必要な体力  □　普通の活動レベル  □　歩行状態  □　歩行時の補助具  □　歩行時のふらつき、めまい、転倒の有無 |
| 活動耐性は適切か | □　呼吸機能（呼吸の状態、SpO2、血液ガス分析、呼吸機能検査  　　胸部X線検査など）  □　循環機能（血圧、脈拍、心電図検査、胸部X線検査、RBC、Hb,Ht,Plt,PT,APTTなど）  □　筋骨格系、神経系の状態（拘縮や変形、筋緊張、関節可動域、筋力、握力、身体欠損、麻痺の有無、自助具の使用など） |
| 運動習慣は適切か | □　運動（頻度、種類、量）  □　仕事での活動量 |
| ADLは自立しているか | | □　日常生活活動（食事、入浴、排泄、更衣、整容、ベッド上の移動、動作全般、など）セルフケア状況  □　セルフケアを阻害する因子 |
| 余暇活動は適切か | | □　余暇の過ごし方 |
| 1. 睡眠-休息 | 睡眠・休息・リラクゼーションは適切か | 睡眠習慣・状態は適切か | □　通常の睡眠時間、睡眠に対する満足度、午睡の有無  □　睡眠に伴う症状（入眠困難、中途覚醒、早朝覚醒、熟眠困難、いびきなど）　□睡眠薬の使用の有無　□睡眠不足随伴症状 |
| 休息・リラクゼーションは適切か | □　休息に対する満足度  □　休息やリラクゼーションの時間の有無 |
| 1. 認知-知覚 | 感覚機能は適切か | | □　視覚と生活への影響（眼鏡、コンタクトレンズ使用の有無）  □　聴覚と生活への影響（補聴器の使用の有無など）  □　そのほか感覚機能（味覚、嗅覚、触覚）と生活への影響 |
| 認知機能は適切か | 記憶力・注意力は適切か | □　記憶力の変化  □　集中力の変化  □　意識レベル |
| 言葉の理解と表現は適切か | □　言語能力  □　理解力  □　伝達手段（会話、手話、指差しなど） |
| 意思決定はできるか | □　問題解決や意思決定を自分でおこなえるか |
| 学習能力・知識は適切か | □　学習困難の有無  □　疾患に関する知識 |
| 不快症状はどうか | 疼痛はどうか | □　疼痛（部位、程度、持続時間、悪化させる因子、対処と効果）  □　疼痛による生活への影響 |
| そのほかの不快症状はどうか | □　不快症状（部位、程度、持続時間、悪化させる因子、対処と効果） |
| 1. 自己知覚   　自己概念 | 自己概念はどうか | アイデンティティはどうか | □　自分自身のことをどう表現するか  □　自分のことをどう思うか  □　会話の様子（姿勢、注意力、表情、仕草など） |
| ボディーイメージはどうか | □　自分の身体についての感じ方  □　見た目、機能の変化  □　病気になった身体への感じ方 |
| 自尊感情はどうか | | □　自分に対する満足感  □　自己否定的発言や肯定的発言の有無  □　会話時の様子 |
| 感情の状態はどうか | | □　感情の変化  □　状況のコントロールの可否  □　会話時の様子  □　援助の必要性 |
| 1. 役割-関係 | 適切に他者と関係を築けるか | | □　他者とのコミュニケーションに関する認識  □　他者への攻撃的な言動  □　他者への拒絶的な言動 |
| 疾病・治療による役割への影響はどうか | 家庭での役割と関係は適切か | □　家族構成  □　家族のサポート状況、面会状況  □　金銭面　□　家族の理解度　□　役割の変化の有無 |
| 職場での役割と関係は適切か | □　仕事の種類、内容  □　職場や学校に対する気がかりなこと  □　役割の変化 |
| 地域での役割と関係は適切か | □　信頼できる親しい人  □　居住地域における孤独感  □　地域活動や社会活動の有無 |
| 1. セクシュアリティ   　生殖 | 生殖機能・セクシュアリティはどうか | 生殖機能の状態はどうか | □　性別、年齢  □　子  □　生殖機能に関する変化や問題 |
| セクシュアリティはどうか | □　せくシュアrティに関する変化や問題  □　結婚、パートナーの有無  □　妊娠、出産、育児へのサポート体制 |
| 1. コーピング   　ストレス耐性 | ストレスとストレス耐性の関係はどうか | | □　ここ１～２年の生活上の大きな変化や困難  □　ストレッサー  □　ストレス反応 |
| コーピングは適切か | コーピング方法は適切か | □　ストレスへの対処方法  □　対処による効果の実感  □　リラックスの方法 |
| サポートシステムは適切か | □　最も助けとなる人  □　社会的サポート |
| 1. 価値-信念 | 価値・信念は守られているか | | □　人生の満足感  □　人生や生活で大切なこと  □　人生における希望や目標  □　信仰する宗教  □　価値観や信念が示唆される行動 |